



## たくさんさんの催しでにぎわう

10月16日(日)、三隅公民館前を会場に「みすみふるさとまつり2016」が開催されました。平成2年から開催されているこのまつりは、三隅地区の特色を生かした企画により、世代間の交流を図ろうと毎年行われているものです。今回は過去最多となる36団体が出



▲三隅清風太鼓の力強い演奏



▲2人1組で挑む初開催の「香月泰男パズル組立選手権」

店し、会場にはやきとりや焼きそば、ラーメンやアユの塩焼きなど、さまざまなグルメが並びました。

三隅保育園と宗頭幼稚園の園児によるパレードでステージの幕が開け、その後は浅田小学校のマーチングバンド、三隅清風太鼓の演奏などが会場を盛り上げました。午後からは、初開催となる「香月泰男パズル組立選手権」が行われ、ペアで臨んだ参加者は、香月泰男画伯の作品「彼岸花」のパズルを完成させる速さを競いました。

まつりの最後には、毎年恒例の「みすみ☆夢☆抽選会」と、もちまきが行われ、多くの来場者がステージ前に押し寄せました。雨天の中の開催となりましたが、多くの店が昼過ぎには完売。三隅地区の住民を中心に多くの人が来場し、にぎわった1日となりました。

## 新鮮な魚介類に長蛇の列

10月2日(日)、仙崎漁港魚市場を会場に「第10回ながとお魚まつり」が開催され、新鮮な魚介類や水産加工品を買い求めようと、市内外から多くの人が訪れました。

鮮魚直売会は開始前から行列ができるほどの人気で、販売開始の午前9時になると、来場者は一斉に新鮮な魚介類



▲新鮮な魚介類を買い求めようと多くの人が訪れた



▲約60kgのマグロが瞬間に解体される様子を見つめる

を競うように買い求めています。会場ではセリ体験や約60kgのマグロの解体実演、魚のつかみ取り、お楽しみ抽選会、仙崎海上保安部巡視船の一般公開も行われ、賑わいを見せていました。

また、この日は旬を迎えた「仙崎ぶとイカ」に仙崎旬宣言も発令されました。

## 内装の木質化で木材の積極的な利用を推進

## 「県産木材ふれあい店」に認定

10月3日(月)、山口銀行長門支店で「県産木材ふれあい店」の開設セレモニーが行われました。

「県産木材ふれあい店」とは、県産木材を利用し、施設を木造化または内装木質化を行った店舗について、やまぐちの農林水産物需要拡大協議

会が認定するもので、県内で4店舗目となります。

銀行内のATMコーナーや窓口カウンターなどに長門市周辺で採れたシイの木材材が使用されており、同行の坪内支店長は「木質化により店内が明るくなった」と話しました。



▲県内で4店舗目、市内では2店舗目となる「県産木材ふれあい店」

## 第2回仙崎かまぼこ板つ球大会in長門湯本温泉

## かまぼこ板で卓球に挑戦

ラケットの代わりに長門市の特産品の一つである仙崎蒲鉾の板を使用する卓球大会「仙崎かまぼこ板つ球大会in長門湯本温泉」が10月2日(日)、ながと総合体育館で開催されました。

試合はダブルスで行われ、午前中はブロック予選を実施。午後からは、予選の結果

に応じ、1位・2位・3位のグループに分かれてトーナメント戦が行われました。

また、衣装やパフォーマンスで最も会場を盛り上げたペアとして、手作りの「ちくわ」と「やきとり」の衣装に身を包んだ原記美代・吉川康代ペア(山口市)が特別賞を受賞しました。

## 「ゆや食堂」が一日限定オープン

## 地元食材の美味しさを味わう

長門市の豊かな海の幸を広くアピールするため、多くの人に食べてもらおうと「ゆや食堂」が10月8日(土)、油谷保健福祉センターを会場に1日限定でオープンしました。

14回目となる「食に関するセミナー創生事業」の一環として開催されたもので、山口

県漁協長門女性部、油谷などで、長門市食生活改善推進協議会油谷地区から約20人が調理に参加し、仙崎で獲れたアジやサワラ、10月2日に旬宣言が出されたばかりの「仙崎ぶとイカ」をふんだんに使った「ゆや定食」80食を来場者に提供しました。



▲仙崎産のアジやサワラ、仙崎ぶとイカなどを調理



▲「ちくわ」と「やきとり」の衣装で特別賞を受賞した原・吉川ペア

古来より継承される伝統の舞

## 兔渡谷神楽舞が奉納

10月14日(金)、三隅の兔渡谷公会堂で伝統の兔渡谷神楽舞が奉納されました。

兔渡谷神楽舞は600年以上前から奉納されていたと言われるほど歴史が古く、五穀豊穡や牛馬安全、海上安全を祈願するものです。現在は兔渡谷自治会に住む13名で神楽舞保

存会を結成し、保存・継承に取り組んでいます。

兔渡谷神楽舞には24種類の踊りがあると伝えられています。現在は継承されているのは13種類。この日も最初の演目「足馴らし」から始まり、最後の演目「舞納め」まで13種類の舞が奉納されました。



▲奉納は夜8時から深夜近くまで続けられた

首脳会談で注目が集まる日露兵士の墓碑

## 参拝者のために周辺を清掃

10月2日(日)、通地区の大越の浜で、日露戦争により命を落としたロシア兵戦没者と「常陸丸」遭難者の墓碑周辺の清掃活動が行われました。

この清掃は、最近参拝者が増加傾向にあることから、環境整備を図ろうと通地区発展促進協議会が主催したもので、地域住民ら13人が参加。

墓碑周辺や参道の草刈り、海岸に流れ着いたごみの収集など約1時間汗を流しました。

地域おこし協力隊通地区担当の馬來政成隊員は「最近は県外ナンバーの車を見かけることも増えました。こうした活動を通じて、訪れる方を迎える準備を進めていきたい」と話しました。



▲「ここで約60年、毎年清掃をしています」と参加者

手作りのメッセージボードが完成

## 俵山でまっちゃんよるよ!!

ラグビーワールドカップ2019 キャンプ招致活動を支援するメッセージボードのお披露目が10月7日(金)、俵山小学校校庭で行われ、俵山地区の住民の手で作られた217個の「ペットボトル風車」と32体の「子どもかかし」に彩られたボードが披露されました。



▲グランドフェンスに設置されたボード

新たなコミュニティで地域再生を図る

## 湊地区まちづくり協議会設立

9月28日(水)、県漁協湊支店で「湊地区まちづくり協議会」の設立総会が行われ、地域の再生を図る新たなコミュニティとして「伝統文化の伝承」「飲食業の活性化」「高齢者が安心して住めるまち」の目標を掲げ、市内9番目となる協議会が設立されました。



▲規約や役員、事業計画が承認された

# 人門の People

人と木の輪を大きく育てたい

岩本 美枝 さん

(NPO法人「人と木」理事長 / 仙崎大日比)



旬な人

木育の推進と山口県初となる「ウッドスタート宣言」に向けて活動しているNPO法人「人と木」。理事長を務める岩本さんは「会員がすぐく協力的で良い方向に進んでいる」と手応えを感じています。

「木育」とは、子育て環境に木を取り入れたり、ものづくりを通して木の文化を伝えたりする活動で、徐々に全国で広まってきています。また、「ウッドスタート宣言」は日本グッド・トイ認定委員会が提唱し、自治

体や企業が木を使った子育て環境の整備をする取組で、長門市でも11月22日に宣言される予定です。

現在、11月22日・23日にルネッサなどがとで開催される「木育キャラバン」に向けて準備の真っ最中。「東京おもちゃ美術館」に展示してある木のおもちゃが県内で初登場します。木の温もりを体験しに家族で来てほしい。また、人と木の輪を一緒に広げていく仲間も募集しています」と参加を呼びかけています。



▲とっとり木育キャラバンで木のおもちゃなどを視察

## 秋晴れのもと運動を満喫

第51回山口県スポーツ・レクリエーションフェスティバル 10月10日(月)、ながと総合体育館周辺を会場に「第51回山口県スポーツ・レクリエーションフェスティバル」が開催されました。

「スポーツテンカ体験会」には50人が参加。スポーツテンカは昔の遊びをヒントに開発されたニユースポーツで、

吉本興業のお笑いコンビ「ガリットチュウ」が指導に訪れ、成功すればすぐ勝利が決まるレジェンドキャッチなどルールを説明。参加者は実際にスポーツテンカを体験し、レジェンドキャッチが成功すると周りから歓声が上がっていました。



▲秋晴れのもと、長門市総合公園には多くの家族連れが訪れた



▲スポーツテンカの必殺キャッチに挑戦する参加者